

KAS

風の谷 びゅう VIEW

社会福祉法人 風の谷
相模原市中央区田名7236-3
発行責任者 政野 光廣
042-760-1033
<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>
e-mail: ykoubou@pastel.ocn.ne.jp



自主製作品



手作り品

地域交流バザーでの
多くのご協力とご参加、
誠にありがとうございました



雑貨



喫茶

【2013年 夏号】

- | | | | |
|--------------|-------|-----------------|-----|
| ◇巻頭文 | P 2 | ◇自閉症支援センター便り | P 3 |
| ◇特集「地域交流バザー」 | P 4・5 | ◇ヘルパー便り・ケアホーム便り | P 6 |
| ◇自閉症について | P 7 | ◇後援会 | P 8 |

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会 代表者 内田照雄 〒243-0035 厚木市愛甲2-11-6-109

毎月15日発行 購読料1部 15円

利用者に認めてもらえていますか？

～日ごろの実践を振り返って～

先日、全国障害者生活支援研究会（通称：サポート研）の公開セミナーに参加する機会がありました。テーマは【みんなで「支援」を考えよう～その人のことを心から肯定的に思うこと】という至ってシンプルなもので、三名のサポート研会員がそれぞれ支援について、実際の支援を振り返りつつ持論を展開するといった内容でした。

私は、三名のうち一人（Hさん）の資料に『支援、支援と言いすぎない』とタイトルが書かれていたので、支援に関わる者への警鐘であろうことは推察できましたが、一体何をメッセージとして伝えたいのだろうか、そのタイトルに気持ちが惹かれました。

発表者のHさんは、地方で暮らす高齢の祖母との会話や、ある自閉症の利用者の方への事業所でのかわりをエピソードとして紹介し、そこから考えた支援について語ってくれました。そして、「私は支援者、私は支援している、と自分はおこがましくてなかなか言えない。相手に認めてもらうこと、受け入れてもらうことのあたりで右往左往している。」と自戒をこめて結ばれました。私はそこに支援に関わる者への強いメッセージを感じ取った次第です。

つまり「相手（利用者）にまずは自分を認めてもらうこと、受け入れてもらうこと、このことを丁寧に取り組んでいますか？それが十分に出来ていないままに、日々の支援が進められていませんか？自分の支援が利用者への押し付けになってはいませんか？」といったメッセージです。

たまたま障害福祉関係の事業所に支援スタッフとして採用され、配属先で障害のある利用者の方を目の前にしたとき、「自分は支援者なのだから、何かしなければ」との思いが先立ってしまい、利用者の意思を汲み取れず空回りするような状態に陥るのは一般論としてありがちなことかと思えます。支援に関わる職員とはそうなりがちな存在なのだと思います。

だからこそ、Hさんは「支援、支援と言い過ぎない」と自戒をこめたメッセージを発してくれたのでしよう。

一方で、利用者の方に視点を移して考えてみるとどうでしょうか？

「今年からあなたを担当する支援スタッフになったから」と、利用者がその職員の存在を受け容れる前に一方的に指示的な対応をされたとしたら。しかも、本人にとって理解の難しい言語指示が多く出されたら。さらに、職員の態度や表情に不安や恐怖を感じていたとしたら…。コミュニケーションの苦手な自閉症・発達障害の人にとってはたまったものではないはずです。

こうした状況に晒される中で、本人はもしかすると、自分に出来る精一杯の方法で意思を表出するかもしれません。それがいわゆる破壊的な行動や暴力的な行動であったとしても、Hさんは本人にとって、正当な反応として認められるべきだと言います。「あなたの支援を受けたくない。あなたの指示に従いたくない」言葉では言えなくても、その感覚の重要性を認めましょうと…。

私は確かにそうだなあとHさんの考えに共感しました。支援とはそもそも利用者の求めに応じて提供されるべきものですし、提供された支援の良し悪しを評価するのも利用者なのだと考えるからです。

全く当たり前のことではあるのですが、あらためて基本的なことを学ばせていただき、日々の実践を見つめなおしてみたいと思った次第です。

今後とも、よろしくご支援ご協力のほどお願い申し上げます。

やまびこ工房施設長 中島博幸

「相模原自閉症支援センター便り」

今年度より発達障害者日中活動研究並びに相談支援の担当になりました薬師丸です。

日中活動研究は3年目を迎えました。元より発達障害は周囲から理解されにくい障害であり、一方でなかなか表面化しない障害でもあり、ご本人の困り感を理解するのにある程度の期間が必要になります。3年目を迎えての私見を述べてみたいと思います。

高機能自閉症あるいはアスペルガー症候群の診断を受けた方が通所されているのですが、皆さんの希望は就労にあります。就労が希望であるならば、一般的な就労をイメージして作業に取り組んでもらおうと支援します。雇用者側の視点を想定し、例えばこんなことを意図します。

- ・ 仕事内容は支援者が決める
- ・ 納期に合わせ、仕事内容を変更する
- ・ 納期が近い時は休憩時間を変更する
- ・ 通所日を増やす
- ・ あいさつをする
- ・ 他の利用者と同じ部屋で仕事をする
- ・ 仕事中は会話をしない
- ・ 余暇活動は仕事終了後に行う

などです。上記のことが出来た先に就労があるとしても、どうしてやまびこ工房に通所されているかと言えば、上記のことが苦手だからです。無理強いをすれば、せっかくの日中活動の場も失われてしまうかもしれません。

やはり、まずは本人のライフスタイルを尊重し、安心できる場所や支援者との関係作りが大事です。これは重度の知的障害を伴う自閉症者の支援と同じです。不安感がより強いこだわりを生み、頑なにしてしまいます。安心感や信頼感があると柔軟さを持てるようになります。最近の取り組みを挙げます。

Gさんは将棋が好きなので、休憩時に詰将棋の本を読まれていました。そこで仕事後に将棋をしようとサークルを作り、支援者が誘ったのですが、なかなか参加してくれません。おそらく帰りの時間が遅くなるのが不安なのだと推測しました。この推測は自閉症支援をしているとよくあることなのです。このまま将棋サークルを実施せずにいても支援は進みません。Gさんへの支援課題の一つに対人関係作りがあったからです。そこで午後の仕事時間の一部を将棋サークルに振り替えて実施しようと誘うと応じてくれました。

対人での本将棋はせず、一人で言う詰将棋をされるだろうと予測していたのですが、ご自分から本将棋でもいいですよと言ってくれました。今のところ、支援者の全敗で、Gさんは普段見せてくれない良い表情をされています。支援者が勝った時にどのような反応を見せるのか、気になるところです。負けを認められないのも障害特性のひとつだからです。

3年目を迎えた日中活動研究で見えてきたものは、通常の支援方策では就労にはたどりつけないようだということです。社会情勢としても障害者の就労は難しい状況のようですが、少しでも社会参加の場を獲得できるように取り組んでいきたいと思いますので、今後ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

末筆にはなりますが、やまびこ工房職員にご指導頂いている横浜国立大学の渡部匡隆先生が大会会長を務められる「日本自閉症スペクトラム学会 第12回研究大会」が8月19日(日)、20日(月)に横浜国立大学にて開催されます。やまびこ工房からも成人期の支援をテーマに話題提供を行い、シンポジウムに参加することになっております。全国各地で活躍されている研究者、支援者が集う大会ですので、是非とも足を運ばれてはいかがでしょうか。(薬師丸)



喫茶コーナーでは工房特製のブルーベリージャムを添えたシフォンケーキや、ご家族が焼いたマドレーヌとコーヒーを…。クラリネットアンサンブルを聴きながらおしゃれなひと時です。

第14回 地域交流バザー



入ってすぐ目につくのが子どもコーナーです。毎年ボーリングや輪投げなど、楽しいゲームが設定されています。今年も子供たちの歓声がよく聞こえていました。



生花コーナーです。朝は曇りでしたが、だんだんと空が明るくなったので、花の色も映え、お客様たちの目によく留まったようです。

前日までの「屋ごろから雨」の予報はどこへやら、時間がたつにつれ太陽がのぞき、今年の風の谷地域交流バザーもよい天気恵まれました。これは“自称 晴れ男、晴れ女”の皆さんの力だけではないはず。きっと、朝早くから準備や片づけに協力していただいたボランティアの皆さん、たくさんの野菜を寄付していただいた地域の方々、そして足を運んでくださった皆様のおかげです。

当日、焼きそばコーナーでは休む暇もないほど忙しく鉄板の前には行列が出来、野菜コーナーの野菜は当日の朝に収穫されたものが並び、うどんコーナーはつゆが足りなくなるほどの盛況ぶりでした。喫茶スペースでは恒例の「ドウ・シルフィード」の演奏に多くの方が耳を傾け今年も盛況となりました。また、生花コーナーは季節の花で棚が埋まり、焼き鳥コーナーは予約に追われ、雑貨販売は相変わらずの人気ぶりでした。他にも生姜味噌と胡麻味噌の田楽、フランクフルト、たい焼き、カブトムシの幼虫などなど。そして利用者が作る刺繍や毛糸製品などの自主製作品が今年も新しいデザインで目を引いていました。

今年もこうして、地域の方々と楽しく交流できる機会を持てたことに感謝しながら、一年一年その人の輪が広がれば、と願っています。



自主製作品コーナーは今年も大盛況！靴下の端切れを編んで作った新作の丸座布団が大人気で、座り心地を確認してご購入する方も多かったです。

毎年、子どもたちや大人にも大人気のカブトムシの幼虫です。上手く育てて立派な成虫になるのが楽しみです。



毎年、無農薬の野菜を近隣の農家の方から提供して頂きます。トラックで当日の朝収穫しに行き、汗だくで採った新鮮そのものの野菜です。今年も完売しました！毎年ありがとうございます！

焼きそば作り2年目！ということですからすっかり慣れた手つきで次々と焼きそばを作っていました。工房のイケメン2人です！



ヘルパー便り 其の六

昨年から相模女子大学で行われている音楽療法サークルに、今年度からやまびこ工房に通っているAさんと参加させていただきました。Aさんは、初参加です。

まず部屋に入ると、学生の方々と挨拶をし、始まるまでの時間もAさんは学生の方たちに好きなボーカロイドについて説明したり、準備されている太鼓を叩いたり、その場に溶け込んでいる様子で過ごされていました。参加メンバーも集まり、いよいよ音楽療法が始まると、Aさんはどことなく曇った表情。リズムに合わせて、体の部位を叩いたりするのは、あまり乗り気ではない様子でした。しかし、小学生の頃から和太鼓サークルに参加されているAさんは、楽器を使う活動では、立って手で叩くタイプの太鼓を選び、先生の合図に合わせながら真剣な顔つきで太鼓を鳴らしていました。その後の歌を歌う場面では、Aさん自ら大好きなボーカロイドの曲をアカペラで披露。リズムを取りながら、マラカスをマイクに見立て、素敵な歌声を聴かせてくれました。音楽サークルの締め曲「にじ」も、見事に歌いきっていました。

サークルが終わってからは、Aさんが希望されていたお店を見て回ったり、3月にオープンした相模大野の駅ビルを散策したりと、Aさんの好みや趣味を発見できる楽しく貴重な時間を過ごすことができました。

後日、ご家庭で音楽療法サークルはどうだったか尋ねてみたところ、Aさんの感想は「緊張した」とのことでした。見事な歌声を披露されたり、堂々と活動されている印象でしたが、初めての場所、初めての人、初めての活動で、相当に緊張されていたのだと実感しました。

まだまだ出会って短い期間ですが、これからさまざまな活動を通してAさんを知り、何よりもまずAさんに寄り添いながら時間を共有していけたらと思います。(小川)



ケアホームナウシカ便り 其の六

ナウシカではゴールデンウィークが終わった頃から今年の秋に向けて、プランターでの野菜作りがスタートしています。

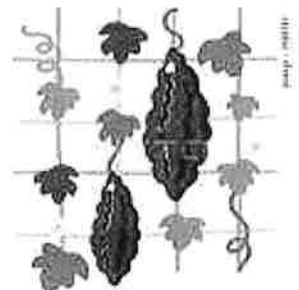
去年はミニトマトや小松菜が収穫され、食卓に並びました。この小松菜は綺麗な花が咲いた後に種が採れたので、その種で今年も小松菜を植えています。他にもトマトやきゅうり、ナスを植えてみました。

さらに玄関前にゴーヤーを植えて、蔓を利用したサンシェード(緑のカーテン)を作る計画をしています。うまく出来上がれば、夏の暑さを和らげるのに一役買ってくれることでしょう。

これらの野菜作りには去年同様に新之助さん(ケアホームナウシカ便り 其の一参照)が協力して下さり、毎朝・夕に水遣りを担当していただいています。

夏～秋にかけてこれらが実り、美味しく調理されてナウシカの食卓に並ぶことでしょう。

次回のケアホームナウシカ便りでは、皆様に収穫の報告とその調理法などもお伝えしたいと思います。(田辺)



自閉症について ～グループ設定～

第二やまびこ工房の開所に向けて、現在職員間で横浜国大の渡部先生からアドバイスをいただきながら、利用者のグループ分けの基準を検討しています。現在53名の利用者がより過ごしやすく、職員のフォローが入りやすいようにするためにも、少人数のグループに分かれて活動しています。グループ分けを行う際にどういった方法で進めていくべきなのか様々な考え方がありますが、一つの目安として性別や年齢、IQなどが挙げられます。

また、自閉症者の対人関係のあり方のタイプを4つに分けたウイングの考え方も参考にしています。4つの分類というのは、他人に対する関心が乏しい「孤立型」、人の指示に従いやすい「受動型」、自分の関心があることのみを話し、相手の反応をあまり気にしない「積極奇異型」、振る舞いや言葉遣いが場にそぐわない堅苦しいものになる「大仰型」です。一人の利用者がはっきり型に収まるとは思いませんが傾向を確認する意味で、どのタイプに近いかを考えてみました。

また、そのグループには、男性職員の対応が望ましいのか、女性職員の対応が望ましいのかといったことも視野に入れながら、利用者にあった環境が設定できるように考えています。

そして、過ごしやすさだけでなく、そこでの活動が良い刺激になりより地域社会とのつながりを広げることを目標としています。

さて、私が担当している作業室Dはどういった作業室なのか、作業室Dの利用者にはどのような特徴があるのかを確認してみました。利用者、職員はともに男性のみで着替えやトイレなど同性の介助が必要な利用者が多いです。全体の年齢は比較的近く、20代の方が1名、30代の方が6名、40代の方が1名の計8名です。10年以上通所されている利用者がほとんどで、ケアホームを利用されている方が2名います。各利用者を先に挙げた分類で分けると、孤立型が多いことが作業室Dの最大の特徴ではないかと思えます。他の作業室と比較するとパーテーションの数が少なく、周りの利用者をあまり気にしない方が多いのです。

ただし、孤立型の面が強いが積極奇異と考えられる面もあるというように、やはり分類は難しく、同じ作業室を担当しているスタッフ同士でも意見が分かれることもありました。

次にブロックを使ったアセスメントを実施。今回は、すべての面と柄が異なるブロックを指示書と同じ模様になるように並べるものを使用しました。目で見て確認することが得意な自閉症者の人たちには取り組みやすいのではないかと考え、各利用者ごとに可能な範囲で場面を設定。

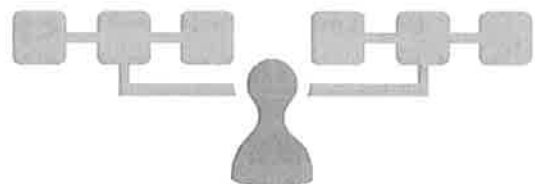
何とかやり遂げようと集中して取り組む人、その反面解答が分からないことで不安になってしまう人、ゲームをやるように楽しげに次々とクリアしていく人、席についても説明を聞いてすぐに立ち去ってしまう人、ブロックを元通りに片付けたくて一つ終わると箱にしまう人など、並べ方や掛かる時間、指示書への注目の仕方など形は様々で、普段と異なる取り組みの中で個々に違った面が見られました。

作業室Dでは、視覚的な提示に対する理解の強さがあること、パッと見て手順の流れが分かる提示になっていれば取り組めること、課題に対してやり遂げようとする姿勢が強いこと、回答を間違えてしまったり、ミスをすることが強い不安感につながるなどが確認できました。

今回の取り組みを踏まえ、今後も個々の利用者にあった作業を設定しながら、より安心して取り組める環境を整えていきたいと改めて感じました。

新しい施設ができ、大きく環境が変化することで戸惑われる利用者もいるかと思いますが、しっかりとサポートしていきたいと思えます。

(森谷、野田)



後援会のページ

風の谷後援会の皆様・やまびこ工房家族会の皆様そして職員の皆様、健やかな毎日をお過ごしと拝察いたします。

空梅雨なのか、雨が降っても降る場所が悪いのか、北関東方面は水不足で取水制限が始まるようです。

となると、関東平野を貫流する利根川流域の東京を含む関東6件は、この夏をどう乗り切ることが心配になります。幸いにも神奈川県は水がめ(人工湖)に恵まれており、心配はないようです。

さて、4月11日に『風の谷後援会役員総会』が開催され後援会長として、引き続き3年目を務めることになりました。ご協力よろしくお願いいたします。

既に、家族会と職員の皆様の協力の下、後援会の一番の大イベントであります『地域交流バザー』が6月2日(日)に盛大に行われました。前日より天気が心配されましたが、皆さんの祈りと、いつも楽しみに待っていただいている大勢の近隣の方々のおかげで、盛大に無事終えることが出来ました。

後援会の役割は『社会福祉法人 風の谷』が行う、各種事業がより一層発展するように支援することを目的といたしております。今年度も皆様の絶大なるご支援をお願いいたします。

平成25年度役員 会長 佐藤辰男(再任) 事務局 縄島 由美・原友枝
会計 山口世津子・小針徳枝 会計監査 鈴木千恵子・三田教子

(記 佐藤辰男)

平成24年12月27日～平成25年6月12日 (五十音順敬称略)

【新規・個人】

菅照雄(相模原市) 大久保禎(秦野市)

【更新・個人】(相模原市)

安藤美由紀 石崎守 井上響子 井上進 大久保敬二 小川幸枝 荻原常寿 小原マサエ 川合義正
川島和章 菊池みどり 小針徳枝 小松克明 斎藤敦仁 篠崎敏雄 清水徹 鈴木秀美 鈴木フミ
高田晋 高林清 谷口博恵 津田英隆 豊田幸男 永山明彦 芳賀道子 長谷川美好 原友作 辺見祐二
堀田脩司 政野大 政野光廣 松木千枝子 松原麻子 百田紀久男 柳井晶子 山口彰一 山崎テル代
(相模原市外)

上城洋一 工藤真弓 中塚正彦(座間市) 新井靖数 大久保秀俊 佐藤辰男(厚木市)
青山恵子 安藤紀子(横浜市) 奥平瑞穂(伊勢原市) 北村恵子(逗子市) 浅羽昭子(横須賀市)
水田敏弘(高座郡) 竹花三枝 山本昭子(町田市) 済田安司 済田順子(世田谷区)
上城和子 村井伸芽(福岡県) 守屋恵美子(大阪府) 辺見貴江子(宮崎県)

【ご寄付・ご協力】

ボランティアサークルのぞみ(大図一代 野崎富子 林富一 原久栄)
ドウ・シルフィード(梅木千鶴子 亀井美佐子 小室かおり 鶴田純代 森美紀)
新宿自治会 新宿小学校 (有)伸和トラスト ワーカーズコープ・キュービック

風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的にしております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

一般会員 一口：3,000円/年間 団体会員 一口：10,000円

※一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

<お問い合わせ先>

〒252-0244 『風の谷後援会』事務局

相模原市中央区田名7236-3 社会福祉法人「風の谷」内 TEL:042-760-1033 FAX:042-760-7115

郵便振込先 口座番号 00230-1-15345

他の金融機関からの振込先 ゆうちょ銀行 9900 店番 029 当座 0015345